

「技術倫理」の单元について

担当：中野義和、皆川 勝、依田照彦

於：東京大学本郷キャンパス工学部2号館1階212講義室

目次

はじめに

技術倫理の必要性

技術倫理の考え方

技術倫理の観点

線引き問題

相反問題

責任ある技術開発の行為

先人に学ぶ(意思決定の3原理他)

権利と責任(個人、組織、社会)

知的財産権(特許と著作権)

製造物責任法

説明責任

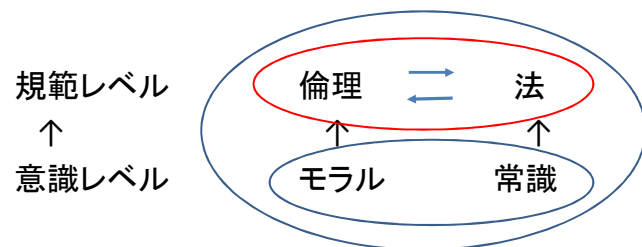
コミュニケーション・レビュー(個人、組織、社会)

技術開発に関する資料等の記録と保存

演習問題(7問)

参考文献

技術倫理：倫理と法



はじめに

英国の首相であったチャーチルの言葉：
「過去を遠くまで振り返ることができれば、未来もそれだけ遠くまで見渡せるだろう」

江戸時代の商人出身の思想家、倫理学者として知られている
石田梅岩の言葉：「呉服問屋が、仕入れ時には長さが不足していると言って仕入れ値を下げさせ、販売時にはそれを黙って長さが足りているものと同じ値で売る。こういった行為を慎むことは、学問の力によってのみ可能になる」¹⁾

梅岩のいう学問：倫理観・道徳観の育成

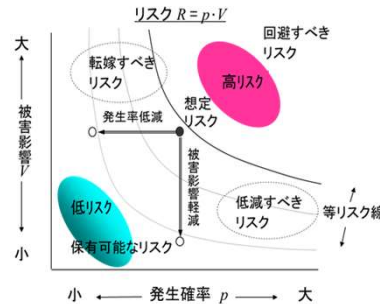
梅岩：「正直・儉約・勤勉」に価値を置いている

(アメリカ独立宣言の起草者の一人であるベンジャミン・フランクリンも)

技術倫理の単元

- 本単元では、基本的な技術倫理について説明(事例多く)
- 近年注目されている倫理関連事項には、生命倫理、環境倫理、情報倫理、リスクマネジメント、データ管理などがある

リスクの概念図



5

技術倫理の必要性

ISO26000 (社会的責任に関する手引き)²⁾

7つの主題 (取り組む内容)	7つの原則 (取り組む際に考慮すること)
組織統治	説明責任
人権	透明性
労働慣行	倫理的行動
環境	ステークホルダーの利害の尊重
公正な事業慣行	法の支配の尊重
消費者課題	国際的行動規範の尊重
コミュニティへの参画と発展	人権の尊重

参考文献2): ISO26000 (社会的責任に関する手引き)、2009年

責任ある行動

技術者は、責任ある行動をとる(Responsibility)とともに、結果に対する責任(Accountability)が果たせるか、そして根拠を求められたとき、遡って根拠を追跡(Traceability)できるか、規則や法令をきちっと守っている(Compliance)か、などについて常日頃から意識しておく必要。

技術開発にあたって常に自己を律する姿勢を持ち、責任ある行動をとることが使命。

事例: 東北電力女川原子力発電所の原子炉建屋の敷地高さの見直し: 使命感

「技術は人なり」³⁾

Capability: 資格を持っているが、能力はないかも知れない。

Ability: 能力はあるが、資格は持っていない。

Competence: 資格もあり、能力も持っている。

Professional: 専門職
Profession: 専門職業

Professional Competency

参考文献3) 土木学会技術推進機構: 土木技術者倫理問題 考え方と事例解説II、2010年 8